



本木宮城県環境生活部長に意見書を提出

# 特別委員会 を 設 置

2月定例議会において、「栗原市議会指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会」と「栗原市議会議員政治倫理条例策定特別委員会」の2つの特別委員会を設置しました。

## 国・県へ意見書を提出

### 指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会

平成26年1月20日の第5回宮城県指定廃棄物処理促進市町村長会議において、栗駒地区の深山嶽が、指定廃棄物の最終処分場の詳細調査候補地の一つとして示されました。そこで、市議会では、当該候補地に係る調査および放射性物質に汚染された稲わらの一時保管の期間が長期化してきていることなどから、これらの諸問題について調査を行うため、2月12日に特別委員会を設置しました。

### 意見書の概要

平成26年1月20日開催の第5回宮城県指定廃棄物処理促進市町村長会議において、指定廃棄物の最終処分場の調査候補地の一つに栗原市が含まれ、多くの市民が衝撃を受けている。

市議会では、平成24年12月に「指定廃棄物の最終処分場を栗駒山周辺に建設することに反対する意見書」を可決し、関係行政庁などに対して提出してきたにもかかわらず、候補地として選定されたことは誠に遺憾なことである。

（本木隆環境生活部長が対応）に、2月17日には環境大臣（井上信治環境副大臣が対応）にそれぞれ持参し、提出してきました。

（本木隆環境生活部長が対応）  
え方では、「安全な処分に万全を期すため、自然災害のおそれがある地域を除外」と明記されていることから、候補地となるべき地域でないことは明らかである。

また、栗駒深山嶽地区は分水嶺であり、荒砥沢ダム、花山ダムの水源となっており、

## 政治倫理の向上を

### 議員政治倫理条例策定特別委員会

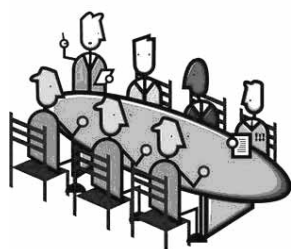
市議会では、より市民から信頼される公正で開かれた議会を目指し、議員の政治倫理の向上を図るため、政治倫理に関する事項を具体的に定めることを目的に特別委員会を設置しました。

### 委員8人で構成

特別委員会は、8人の委員で構成し、平成26年12月定例議会までを調査期限として設置されました。

正副委員長および委員については、次のとおりです。

- |    |    |     |    |    |    |      |     |
|----|----|-----|----|----|----|------|-----|
| 委員 | 委員 | 委員  | 委員 | 委員 | 委員 | 副委員長 | 委員長 |
| 高橋 | 佐藤 | 瀬戸  | 鹿野 | 佐藤 | 濁沼 | 佐藤   | 佐藤  |
| 義雄 | 文男 | 健治郎 | 芳幸 | 一孝 | 悟  | 久義   |     |



# 一般質問

## Q & A

2月定例議会では、5会派が代表質問、9人が個人質問を行いました。

質問と答弁の内容を要約してお知らせしています。

代表質問とは、会派において施政方針や予算編成方針に対する疑問などをまとめ、代表が質問するものです。

なお、紙面の都合により、答弁者の名称について一部を省略し、掲載しています。

例 病院事業管理者 → 病院管理者  
農業委員会会長 → 農委会長



最終処分場候補地となった深山嶽周辺



議員 小岩 孝一

代表質問  
新政くりはら

### 最終処分場建設阻止せよ

**議員** 東京電力福島第一原子力発電所事故によって発生した指定廃棄物の最終処分場候補地として、国から「栗駒深山嶽国有林」が示されたが、詳細調査を拒否

し、市民一丸となって反対運動すべきと思うがどうか。  
**市長** 詳細調査を拒否しても、候補地は国有林のため勝手に調査し判断される危険もあるが、各種団体や市民から多くの反対の声が寄せられ、市議会においては二度の「反対意見書が可決」されていることを重く受け止め、政治生命を賭けて、理路整然と適地でないこと

を国に説明していく。  
**議員** 集中改革プラン（前期）の成果を検証して、中期計画に反映すべきと思うが、どうか。

また、行政改革懇話会からの提言や、普通交付税の見直しはどうか。

**市長** 前期改革プラン目標額21億円に対し、17億円強の成果をあげた。今後も限られた財源の中で、質の高いサービスの提供に努める。また、行政改革懇話会からは、継続が大切であり、成果を分かりやすく伝える努力が必要との提言があった。普通交付税の見直しは、平成26年度以降は合併団体の一本算定に支所経費を加算することや、平成27年度以降は自治体の面積や人口密度などが算定に反映され、減額幅の縮小につながる。

#### その他の質問

- 予算、決算特別委員会に市長の出席を求める
- 新聞報道の説明を求める



さとう ちあき 議員  
佐藤 千昭

代表質問  
政策フォーラム

# 合併10年 その効果は



都市計画道路桜町線(栗原中央大橋から築館バイパスへ)の整備状況

**議員** 平成26年度は合併10年目となる。市長は「市民が創るくらいしたい栗原」を基本理念に市政を担ってきた。合併効果をどう捉えているか。

**市長** 合併効果が最大限いかされたのは、「地震」での被災者支援や復旧事業に全市をあげての迅速な対応や、道路などインフラ整備で安全・安心なまちづくりが推進できたことである。財政面では地方債の残高が行財政改革の実施による人件費

削減や公債費の抑制で、大幅に減少している。

**議員** 指定廃棄物の最終処分場は、なぜ深山嶽なのか。明確に反対すべき。

**市長** 何度も繰り返し、理論的に不適地であることを証明して、明確に反対していくと説明している。詳細調査が不適地の裏付けになると考えている。

**議員** 市の木材利用促進の取り組み状況は。

**市長** 地域産材の活用に向けた「公共建築物における木材利用の促進に関する方針」を策定して、公共施設の木造化、内装の木質化など積極的に推進していく。

**議員** 有害鳥獣の被害が多々発生している。捕獲など、総合的な対策は。

**市長** 被害が発生した場合、有害鳥獣駆除隊による箱罠捕獲での対応と貸付用の電気柵も配備しており、有効活用し被害防止に努めたい。

その他の質問

○平成26年度から大きく変わる米政策の市の対応  
○(仮称)市総合研究所  
○栗原中央西線柳ノ目築館間の整備状況

代表質問

日本共産党  
栗原市議員



おの きゅういち 議員  
小野 久一

## 指定廃棄物最終処分場 白紙撤回を求めよ

**議員** 「調査をしてもらえば深山嶽には来させない」という市長発言の自信は、どこからくるのか。岩手・宮城内陸地震、東日本大震災に耐えた土地だから、適地とされたのではないか。

**市長** 候補地は、地震により数多くの地滑りや斜面崩落が発生した深山嶽で、荒砥沢の地滑り地や花山の崩落地が近くにあり、学者からもこの一帯が地滑り地帯であるという報告を受けている。なぜ候補地となったのか大いに疑問であり、環境省に聞いてみたい。

**議員** 最終処分場に仮設焼却炉を設置するが、8000㌔の稲わらを焼却した時、



深山牧野のこの姿を残したい

**議員** 国保会計を県に一本化する計画の進捗状況と、市長の見解は。

**市長** 震災で一時中断したが、平成25年度に再開された。広域化は評価し、動向を注視し、判断する。

**議員** 国保税は高すぎる。国庫負担の引上げを強く求めるとともに、資産割の根拠は今はない。

**市長** 引き続き要望していく。資産の所有は担税力があることを表している。

国保税引き下げと  
資産割の廃止を

何倍の濃度になるのか。また、詳細調査を受け入れず撤回を求めるべきである。

**市長** ストー方式焼却施設の場合、飛灰発生率が3割で、放射性セシウムがすべて飛灰に移行すると濃度は33倍になると考えられる。この仮定条件では27万㌔となる。受入れについては、資料を基に反論していく。

般 質 問



代表質問

清流会

# 米政策の見直し 栗原への影響は



議員 勝義 相馬

**議員** 政府は、5年後をめぐりに減反を廃止し、米政策の大転換を図るが、本市の農家所得はどう推移するのか。また、どのような方針で推進していく考えか。

**市長** 国で示された試算に



郷土芸能の伝承活動に励む金成けやきっこ太鼓

## 市が目指す 人間像は

基づき、大規模経営を想定した集落全体の所得としては13割の増加。中小規模農家においては、米の直接支払の減額が大きく影響することや、制度全体の詳細が示されておらず、困難である。市の推進方針としては、所得確保のための活動組織の設立に向け支援していく。

**議員** 学校教育の主眼は学力向上にあるが、同時に栗原を背負っていく郷土愛に満ちた、たくましい人間を育てる場でもある。市としての育てる人間像と方策は。  
**教育長** 学校教育の目標の基礎をなすものとして、目指す「栗原っ子」像を明確にしており、その実現に向けて努力しているところである。また、教育訓の策定の提案について、関係機関と連携し、取り組みを研究していきたい。

## 子育ては栗原で

**議員** 「子育ては栗原で」をスローガンとした施策の成果と、定住支援策は。

**市長** 子育て支援策としては、全国でもトップレベルで、保護者の経済的負担の軽減に取り組んでいる。

また、若者定住のための条件整備、婚活促進事業の施策などに加え、優遇措置の研究も深めたい。



議員 勝男 高橋

代表質問

社民党  
栗原市議団

# 栗原の未来のため 処分場建設断固反対



深山嶽候補地付近  
(小野松沢崩落個所 平成25年6月)

**議員** 栗駒深山嶽への指定廃棄物最終処分場建設問題については、市長が先頭に立ち、議会や市民、各種団体と一体となり、反対運動を進めるべきと思うが。  
**市長** 深山嶽が不適地であることを証明し、明確に反対していく。  
**議員** 放射能汚染稲わらの一時保管場所が火災になった場合、周辺住民の避難マニュアルは。

**市長** 稲わらや牧草、ほだ木保管場所への対策も含め市と県が一体となり、マニュアル策定に向け協議する。  
**議員** 市民生活に直結する学校給食費、水道料金、診療所や病院の使用料や手数料については、消費税率の引上げに伴う使用料などの引上げを行わず、据え置くことは検討したのか。  
**市長** 据え置けば市の負担となり、利用者以外の方の負担になる。税負担の円滑かつ適正な転嫁という国の方針もある。  
**議員** 国保税の市民負担は限界に達している。一般会計からの法定外繰り入れを行い、国保税の引上げを抑えることも、国に対しは、負担割合を引き上げるよう求めるべきでは。  
**市長** 平成22年度と23年度で7億円の法定外繰り入れを行い、税率の引上げ幅を抑えてきたが、慎重に対応したい。国に対しては、引き続き要望していく。  
**議員** 東日本大震災被災者を対象とした医療費窓口負担の免除への対応は。  
**市長** 市民税非課税かつ大規模半壊以上を対象に、平成26年4月から実施する。

再生可能エネルギー  
発電の促進を図れ



阿部 卓光 議員

**議員** 市内の耕作放棄地の現状と解消策は。  
**農委会長** 荒廃農地は1378畝、うち742畝が再生可能な農地である。解消策としては、耕作者への改善指導や耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用し、助成している。また平成25年度には、荒廃農地復元モデル事業を3カ所実施し、次年度も予定している。  
**議員** 平成25年11月に農山漁村再生可能エネルギー法が成立している。この法律は、発電設備と農地の計画

的な整備や再生エネルギー発電を促進し、地域における所得の向上に結び付けることを狙いとしている。積極的に取り組むべきでは。  
**市長** 関連予算は決定されているが、太陽光や水力、バイオマスなど地域資源を活用した補助事業の要件など詳細な内容が示されていない状況で、今後積極的に情報収集し関係機関と連携を図り、調査検討していく。  
**議員** 家庭や地域における子育て機能の低下で、児童虐待などの件数が増加して

いる。市の現状と対策は。  
**市長** 保護や支援を要する児童は270人で、関係機関と連携を図り、早期発見と適切な対応、未然防止に努めている。  
**議員** 不登校やいじめの現状と、いじめ防止基本方針の策定と周知の考えは。  
**教育長** 不登校は63人、いじめは小中学校で4件である。栗原市いじめ防止基本方針の策定に取り組んでおり、周知を図っていく。また、各学校に3月末までに策定するよう指示している。



農地の隣接地に設置されている太陽光パネル

「好平茂」など  
出品牛に  
全面支援を



佐藤 悟 議員

**議員** 第11回全国和牛能力共進会宮城大会は、平成29年9月7日から11日までの期間「夢メッセみやぎ」で開かれる。大会出品へ向けたい対策、基幹種雄牛に選抜された好平茂の産子の出品に向けた支援として、「くりはら和牛の郷づくり支援強化事業」において、好平茂産子についても茂洋産子同様以上の助成を行い、飼養農家の改良意欲の向上に寄与すべきである。  
**市長** 出品牛は、平成29年度県の共進会で選考される。

関係機関と連携し、各種研修会を開催、飼養管理技術の向上、支援強化事業の継続、繁殖素牛の保留強化などに取り組む。好平茂は保留の強化、優秀な出品牛として、また、茂洋産子と同様の助成支援を行っていく。  
**大洪水から市民を守れ**  
**議員** 一迫川の築館地区（留場橋、左足橋、秋山大橋）の堤防と河川敷の整備を早期に行い、大洪水などから市民の生命と財産を守



競りを待つ、元気に育った子牛たち

るべきである。また、旧築館自動車学校跡地は、河川公園、パークゴルフ場などとして整備すべきである。  
**市長** 県は、迫川圏域河川整備計画の見直しを行っているが、年次計画は示されていない。右岸で一部堤防区間があり、左岸は暫定堤防で、過去に溢水の個所があり、県に対し整備計画の策定と改修を提言する。また、旧築館自動車学校跡地は国に寄附したと聞いており、利活用の検討はしていない。